

我部祖河川水系 河川整備基本方針

平成22年 2月
沖 縄 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係わる川幅に関する事項	4
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を 維持するため必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
我部祖河川水系図	6

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

我部祖河川は、沖縄本島北部の名護市に位置し、その源を名護岳(345.2m)に発し、北西に流下した後、喜知留川(普通河川)と合流し、平地に広がる畑の中を直線的に流れ、奈佐田川(普通河川)と合流した後は、流れを北東に転じ、河口部で蛇行して羽地内海に注ぐ、幹川流路延長6.1km、流域面積14.68km²の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨は梅雨期と台風期に多く、年平均降水量は約2,100mm、年平均気温は約22℃である。

我部祖河川流域は、本島北部圏域の拠点となる名護市の羽地地区に位置し、市街地が約1割、農地が約5割、山林・原野が約4割を占めている。源流部に名護岳を中心とする比較的起伏の小さな山地が分布し、丘陵地帯を流下している。中流から下流部では、河川沿いに圃場整備された農地が広がっており、国道や県道沿いには市街地が形成されている。河川周辺に広がる農地は、かつてパニジターブックワ(羽地田袋)と呼ばれる水田であり、昭和49年頃まではのどかな田園風景が見られたが、その後、サトウキビ畑等への転作が進み、現在に至っている。

流域の地質は、大きく分けて河川沿いの沖積層、支川奈佐田川の左岸側に主に見られる琉球層群国頭礫層の砂礫岩、源流部に広がる国頭層群名護層の緑色片岩の3つに区分できる。なお、流域を南北に縦断する国道58号と並行し、断層が走っており、これが新生代の地質である沖積層や国頭礫層砂礫岩と中生代の地質である名護層緑色片岩の境界になっている。

我部祖河川の源流から第二金川橋^{かねかわ}に至る上流部は、ヤブニッケイやイジュなどの樹木が分布し、瀬や淵が連続する良好な溪流環境が保たれており、溪流には、流れの緩やかなところを好むキバラヨシノボリ等の魚類のほか、グマガトビケラ、オキナワコヤマトンボ等の水生昆虫が生息している。また、鳥類のカラスバト、爬虫類のクロイトカゲモドキ、両生類のイボイモリ等の国指定天然記念物をはじめとする貴重種や地域の固有種が生息し、多種多様な生物の生息・生育場となっている。

第二金川橋から潮止堰に至る中流部は、世利田橋^{しりだ}より下流は整備済みであり、その上流は未改修となっている。沿川には、ギンネムやススキ等が繁茂している。河川には、外来種のグッピーやカワスズメ等の魚類、モクズガニ等の甲殻類、バン等の鳥類が生息している。

潮止堰から河口に至る下流部は、感潮域となっており、石積護岸や植生ブロックにより整備されている。水辺や中州には、メヒルギを主体とするマングローブ林が生育するほか、汽水域に見られるボラ等の魚類やスネナガエビ等の甲殻類が生息している。また、マングローブ林内は、魚類のミナミトビハゼ、甲殻類のフタバカク

ガニ等が生息し、鳥類のアオアシシギ等の採餌の場となっており、生物の良好な生息環境を形成しているとともに、左岸背後の丘陵地の樹林と一体となって水と緑の良好な河川景観を呈している。

我部祖河川水系には、1970年代までリュウキュウアユの生息が確認されていたが、河川環境の変化等により現在は生息が確認されていない。

河川の水質は、奈佐田川合流点より上流がA類型（BOD2mg/l以下）に指定されている。平成19年の水質（BOD75%値）をみると、奈佐田川合流点より上流地点で2.3mg/l、喜知留川合流点より上流の石橋付近では3.4mg/lとなっており、両地点ともA類型の環境基準値を超過している。

我部祖河川の治水事業は、狭窄部における度重なる氾濫被害を防止するため、昭和56年度より河川改修事業に着手し、河口から3.37km区間について、河道拡幅及び護岸等の整備を進めている。しかしながら、治水事業着手後も、整備の遅れている中流部の狭窄部において、台風や集中豪雨による大雨によって度々浸水被害に見舞われている。特に、昭和59年8月の台風10号の大雨によって、床上浸水5戸、床下浸水17戸などの浸水被害が発生した。また近年においては、平成7年5月、平成12年7月の集中豪雨で床上・床下浸水などの浸水被害に見舞われている。

河川水の利用については、沖縄県企業局の取水により沖縄本島の水道用水として利用されている。

河川空間の利用については、河川改修済み区間において階段護岸が設置されており、水辺に近づけるようになっているものの、河川の利用はあまり見られない。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

我部祖河川水系の課題としては、河川の流下能力不足による浸水被害の解消、水質の改善、景観への配慮、川との親しみの場の確保等が挙げられる。

これらを踏まえて、治水安全度の向上を進めていくと共に、

『多くの生物が棲み、美しい景観を創出し、人々の心を潤す川』

を基本理念として、川づくりを進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮し、30年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目的として河道の整備を行うとともに、台風による高潮にも対処する。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対しても、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、総合的な洪水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、生物の生息環境に配慮するとともに、水質の改善に取り組み、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、治水、利水との整合を図りつつ、河川が本来有している生物の生息・生育環境や人と川との関わりに配慮した整備と保全に努める。

上流部は、コンクリートブロック護岸で整備されている区間が一部見られるが、総じて周辺に樹林の迫る自然豊かな環境を呈していることから、これらの環境の保全に努める。

中流部は、直線的な河道となっており、生息する生物も少ないことから、みお筋や多様な水際の創出を図るとともに、上下流の連続性の確保に努める。さらに、集落や学校が隣接する区間については、人と川との関わりに配慮し親水性の確保に努める。

下流部は、マングローブ林が繁茂し、生物の良好な生息環境となっているとともに、左岸背後の丘陵地の樹林と一体となって、水と緑の良好な河川景観を呈していることから、これらの環境の保全に努める。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から適切に対策を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災教育、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図るとともに住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を積極的に推進・支援し「みんなで協力しあう川づくり」を目指す。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

我部祖河川の基本高水のピーク流量は、30年に1回程度の降雨で発生する洪水について検討した結果、基準地点稲田橋において $190\text{ m}^3/\text{sec}$ とし、これを河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等の一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
我部祖河川	稲田橋	$190\text{ m}^3/\text{sec}$	$0\text{ m}^3/\text{sec}$	$190\text{ m}^3/\text{sec}$

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

我部祖河川における計画高水流量は、基準地点である稲田橋地点において、 $190\text{ m}^3/\text{sec}$ とする。



我部祖河川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

我部祖河川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとする。

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 N. P. (m)	川幅 (m)	摘要
我部祖河川	稲田橋	1.95	3.18	23	基準地点

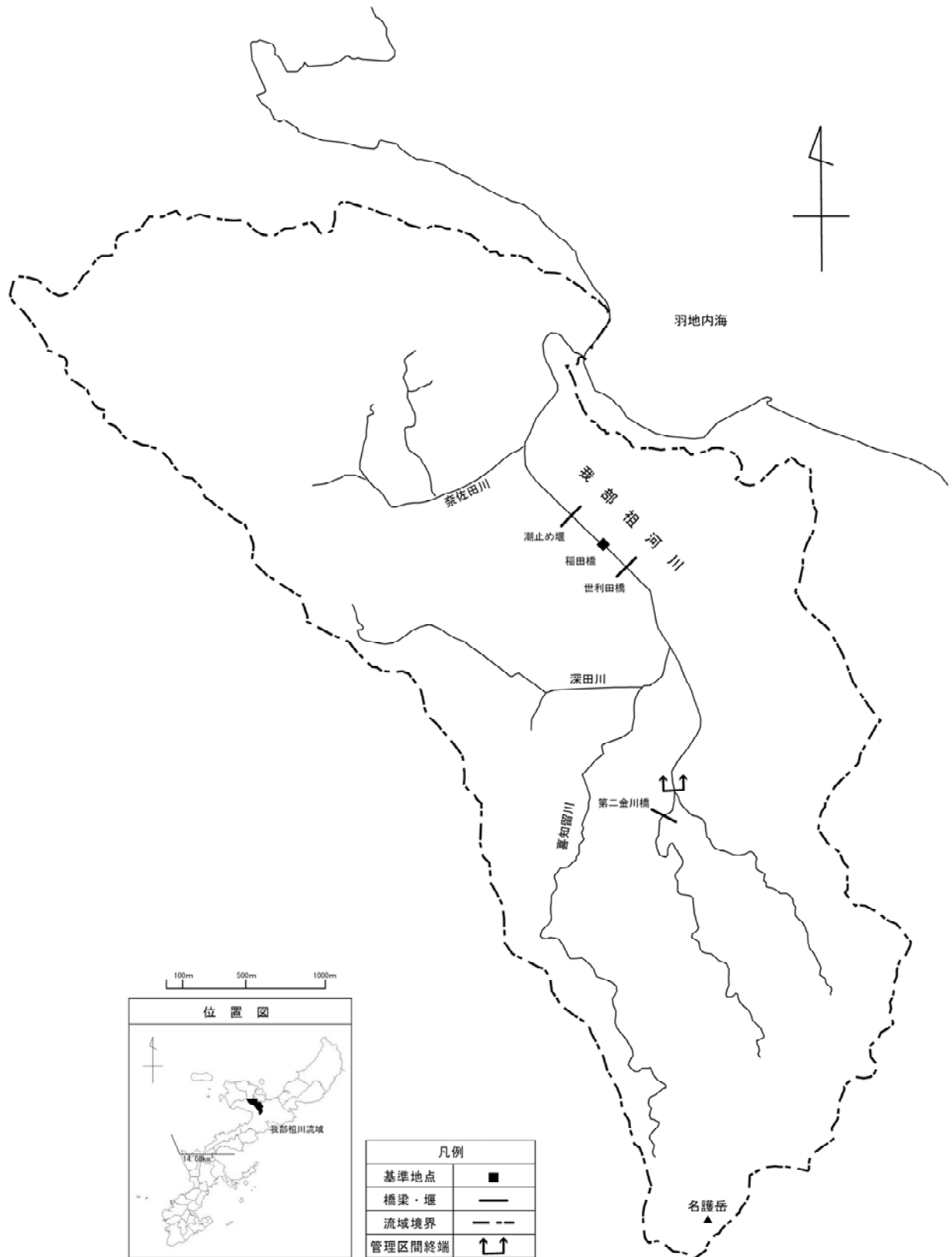
N. P. : 那覇港中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

我部祖河川における既得水利は、水道用水として約 $0.25\text{m}^3/\text{s}$ (最大)の取水がある。

我部祖河川の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、流量観測、動植物等の調査を実施し、引き続きデータの蓄積に努め今後さらに検討を行う。

(参考図) 我部祖河川水系図



凡例	
基準地点	■
橋梁・堰	—
流域境界	- - -
管理区間終端	↑↑